



2019年1月18日
東日本旅客鉄道株式会社

新幹線早期地震検知システムへの海底地震計情報の追加導入について

JR東日本では、東日本太平洋沖で発生した地震を早期に検知し列車の安全性を確保するため、国立研究開発法人防災科学技術研究所（以下、防災科研）が整備を行っている「日本海溝海底地震津波観測網（以下、S-net）」の一部の海底地震計情報を、2017年11月から新幹線早期地震検知システムに導入し運用しています。今回、他のS-net 海底地震計情報についても新幹線早期地震検知システムに追加導入し、新幹線早期地震検知体制の更なる強化を図ります。

1. 概要

S-netの海底地震計情報については、当社への配信に関するシステム整備が完了した房総沖観測網（S1）の海底地震計情報について、2017年11月1日より新幹線早期地震検知システムに導入し運用してきました。このたび、茨城・福島沖（S2）以北の各海底地震計情報についても、当社への配信準備が完了したことから、新幹線早期地震検知システムに追加導入します。

これにより、新幹線早期地震検知システムで活用する海底地震計観測網の計測範囲は、当社エリアの太平洋沖ほぼ全領域へと拡大されます。

2. 使用開始日

2019年1月25日（金）

3. 追加導入する海底地震計情報【別紙】

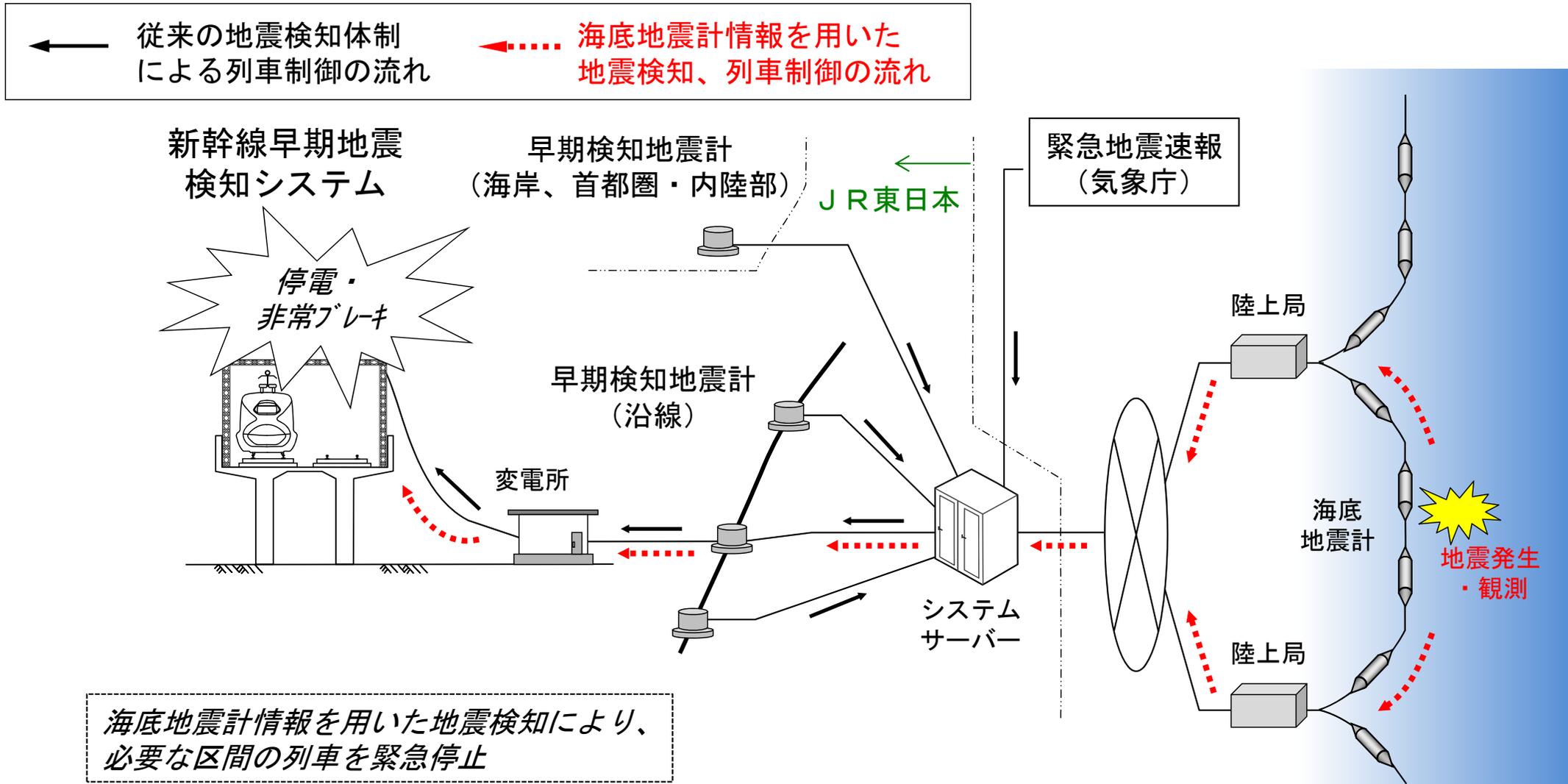
茨城・福島沖（S2）、宮城・岩手沖（S3）、三陸沖北部（S4）、釧路・青森沖（S5）の海底地震計情報

国立研究開発法人防災科学技術研究所が整備している
日本海溝海底地震津波観測網(S-net)および当社の早期検知地震計の配備状況



 今回追加導入
 2017年11月導入済
 今後導入予定

新幹線早期地震検知システムにおける海底地震計情報の流れ



海底地震計情報の活用により、従来の地震検知体制と比較して最大で約20秒程度の検知時間短縮

※S1~S4の場合